

南極体験 高校生に語る

金沢 観測隊4回参加坂下さん

日本南極地域観測隊として、昭和基地の設備建設などに携わった住宅メーカーの社員、坂下大輔さん(42)が4日、金沢市堀川新町の第一学院高校金沢キャンパスで、「南極を語ろう」と題して授業を行った。出席した1〜2年生計30人に、仲間と協力して挑戦することの大切さを訴えた。

輪島市出身の坂下さんは、身長1.91、体重100kg近い大きな体の特徴。2009年から18年まで計4回観測隊に参加し、太陽光や風をエネルギーに変換して備蓄する「自然エネルギー棟」などを担当した。

南極観測隊の仕事について語る坂下さん(4日、第一学院高校金沢キャンパスで)

授業では、南極観測船「しらせ」が海水を砕きながら数週間かけて豪州から南極



どい船酔いで15kgほど痩せる人もいた」と過酷な任務の様子を紹介。一方で、オーロラや太陽が沈まない「白夜」など、南極に行かなければ体験できない自然現象の魅力を語り、座右の銘にしている「やらずの後悔は、一生の後悔」という言葉を伝えた。

1年の寺田真心花さん(16)は、「大変な地域で活動しているということが伝わった。諦めないという気持ちを持って過ごしたい」と話した。